

諮問に当たっての趣旨説明

中央区は、江戸開府以来の歴史と伝統を背景に、日本を代表する都市として確固たる地位を築いてまいりました。我が国の文化・商業・情報の中心地として、常ににぎわいとともにあつた本区ですが、戦後の経済成長や都市の空洞化に伴い、40年以上にわたり著しい人口流出を招きました。現在の基本構想は、長期に及ぶ定住人口の減少と、バブル崩壊後の長引く不況により、地域全体の活力が失われつつあつた平成10年に策定したものです。

以降、この基本構想に掲げた「都心再生」を旗印に、住環境の整備をはじめとした総合的な取組を展開してまいりました。その努力が花開き、平成10年には7万人台だった定住人口は、昨年ついに14万人を突破。一時は500人台だった年間出生数も、今や2,000人に届く勢いであり、本区はまさにその活力を取り戻したといえます。

しかし、「都心再生」を経てさらなる成長・成熟へと向かおうとするこの先には、多くの課題が待ち受けています。

急激な人口増加に伴い、子育て、教育、高齢者福祉など様々な分野で行政需要が拡大しております。今後の人口動向を見極めつつ、長期的な視点から、しるべき手を打っていかなくてはなりません。また、本年11月には、築地市場が80年の歴史に幕を閉じます。その跡地の活用を含め、築地の活気とにぎわいを継承・発展させていくための議論を深めていく必要があります。

そして、4年後に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、晴海地区に選手村が建設されます。世界最大のスポーツと平和の祭典を、本区がさらに機能的で魅力的なまちへと生まれ変わるための好機と捉え、都市観光の推進、誰もがスポーツに親しめる機会の創出、環境にやさしいまちづくりなどを一層加速していかなくてはなりません。

今から約140年前、文明開化の象徴とも言えるガス灯が銀座に灯りました。新しいものを率先して受け入れ、まちの発展につなげてきた歴史が物語るように、これからも本区に集う多くの人々が国籍・文化・価値観などの違いを乗り越え互いに認め合うことで、必ずや変革のうねりを生み出すことができると信じております。

本区がより高い次元へと進化するための未来への扉を開くべく、新たな基本構想とそれを実現するための施策のあり方について諮問いたします。